

J：COM日野 放送番組審議会議事録

開催日時 平成27年3月16日(月) 16:00～17:30
場所 J：COM日野 第一会議室
出席者 番組審議会 : 市川委員、渡邊委員、鷹取委員、谷委員、中嶋委員
土方委員、山口委員
欠席委員 : なし
会社代表 : 三木社長、香月取締役 (事務局 小林/宮崎)
J：COM代表 : J：COM東京中央ブロック 荻野部長

配布資料 1) 日野局の現状と今後の方針
2) コミュニティーチャンネル「J：COMチャンネル日野」自主制作番組
3) 2015年度J：COMチャンネル基本方針
4) J：COMチャンネル番組ガイド3月号
5) 番組基準に抵触する映像手法を用いた放送実施に関する行政指導について

本議題に入る前に、本日のスケジュールと委員の変更1名が紹介された。

- 1) 社長あいさつ
昨年6月の就任と、4月1日にはJ：COMグループになりチャンネル変更とサービスの統一、デジアナ変換の終了などを報告。
- 2) 日野局加入世帯数の現状と今後の経営方針
昨年4月より株式会社ジェイコム日野となる。来年は20周年の節目の年、イベントなどを考えたい。資料を基に1月度の各サービス加入世帯数を紹介。
今後の営業方針として、多彩なお客様ニーズへ対応するビデオオンデマンド、ビデオパスの導入。お客さまへの利益還元として、クイズ番組、クラシックコンサートを今後も開催していく予定。また、お客様サービスの専用部隊の配置で、加入後のフォローや宅内点検に注力している。
このほか、地域社会活性化と取引先との信頼向上を目指す施策を紹介。
- 3) コミュニティーチャンネル「J：COMチャンネル日野」自主制作番組
自主制作番組のレギュラー番組(11番組)のほか、この1年に行われた生中継や収録番組などの特別番組(11番組)について紹介があった。
その中で、以前「HinoVoiceTV」で人気のあった散歩のコーナーを「ひのぶらり道」として11月からの新番組としたことを紹介。
「日野の音楽会」を15分から30分番組として拡大編成。
「デイリーひの」では新しい試みとして、日野で活動する人を紹介する「日野人図鑑」、お店紹介「ひのみせ調査隊」、市内の地蔵をめぐる「ひの地蔵めぐり」をコーナーとして始めた。
- 4) 2015年度J：COMチャンネル基本方針
見てもらえるコミュニティーチャンネルとして内容の強化に努めるのはJCN時代と変わらない。市内だけでなく都内の情報も生放送で視聴者に届ける予定。
生放送を増やす(強化する)ことで、災害発生など緊急時に速報を伝えることができる。それとともにスタッフのスキルアップで地域の安心安全を目指す。
高校野球や地域のイベント中継(特番)を強化。
市内の情報を市外にも発信し地域の活性化・地域をアピールする。

新 J : COMチャンネルの編成イメージを紹介。共通編成の利便性を強調。
ローカル情報と広域情報を織り交ぜてコミュニティーチャンネルの注目度を上げる。

5) 「デイリーひの」および「ひのぶらり道」ダイジェストを視聴しながら内容を紹介
(視聴後)

日野の編成は提示されたこの表でいくのか？

あくまでイメージだが、ニュースはこの時間、行政はこの時間というように揃えることで各方面のご理解をいただいている。

「ひのぶらり道」は親しみやすい番組。「道」を「みち」と読む人が多いと思うので「どう」と振り仮名をふっては？

道を極めるという意味で「どう」と読ませているが、まだまだ内容がついていけない。今後に期待してほしい。

組織が変わっていろいろ一緒にやったほうが合理的なのはわかるが、利用者としては複雑になりすぎてわかりにくい。

合併して資本金が多くなったが、狭い日野市内でも経営は安定してるのか？
都市型のケーブルテレビはある程度設備投資が必要。MSOという大きな傘下に入ることで設備にかかる出資を抑え、来る4Kにも対応できる。
ただしやっていることは昔と変わらず、これからも良いサービスを提供するのでご理解をいただきたい。発電機も新設し、安定した事業を目指す。

6) スペースシャワーTVで番組基準に抵触する光点滅についての報告

昨年12月に放送したCS番組「スペースシャワーTV」内にて番組自主基準に抵触する光点滅にかかる映像手法が用いられていたことが判明し、2月27日付で総務省より行政指導を受けたことについて説明があった。

7) 番組審議委員より質問、番組に関する意見、アドバイス

・委員より

(問) 「デイリーひの」のネット配信(WE Bライブラリー)をやめたのはなぜ？

グループ全体の中でやっている局とやっていない局があり足並みがそろっていない状況だった。MSOからもインターネット上に公開するのは・・・という話があり、中止とした。

サーバー機能を統合するにあたり、どのような機能を残すかとの議論があった。基本的にJ : COMはこの手のことはやっておらず、この件に関してはニーズがあることを本部に伝える。

※補足※ J : COMとサーバーの共通化をするにあたり、外部から安易にアクセスできるサーバーの局内設置は認められないと通達があった。そのため、2004年から独自に続けてきた「WE Bライブラリー」を2014年2月をもって廃止とした。

・委員より

(問) 共通化は時代の流れだが、懸念しているのは災害発生時の対応。がけ崩れや河川の氾濫など今までにない日野市独特の災害が発生した場合、日野個別の情報は流せるのか？その対応はどうなるのか？

ケーブルテレビは民放にできない地域レベルの災害情報を出すのが使命。

6月からの防災無線サービスの延長線上で取材スタッフも割り当て、スタッフの安全を考慮した上でできることは対応する。

震災発生後の安否情報などは時間がかかるので特に重要ではないか。

直後まずはNHKを見らと思う。ケーブルテレビが重要な役目を担うのは復旧期であり、ケーブルテレビだからこそ地域の細かい情報が出せる。

大きな震災は広域的な話であって、広島で発生したような地域的な土砂災害の場合、共通化した後に日野局として単独に対応できるのかが心配。

デイリーニュースなどの生放送はそういった場合に対応するための訓練と考える。

・委員より

(問) オリンピックを意識した番組は考えている？

コミュニティーチャンネルとしては、オリンピックを意識した方向性は今のところ出ていない。行政との会合には出席しているが、まだまだこれから。

権利上の問題があるため勝手には動けない。が、関係機関等には積極的に協力していく。

本大会はNHKや民放が主にやっていくが、そこまでの過程(スポーツイベントの盛り上がり)に注目していく。去年の国体の際には、各地域のスポーツイベントを取り上げた。オリンピックの事前取り組みやイベントで何かできるのでは？

※生放送およびスタジオの見学

ニュース以外で何を取材すればみんなが見てくれるかが課題。

視聴者は何を求めているのか？

お買い物情報がほしい。いまの旬の野菜はこの場所で手に入るとか。産地や生産者など主婦は興味があり、子育て中のお母さんは食べ物に敏感になっている。

J Aと組んで産地紹介をしているケーブルもある。

個人宅で作っている郷土料理や農家がやっている地域的なものを取り上げては？自治会長をやっているが、水害があった場合、階段を使って中央道に上がるように言っている。そういう意味では、市役所から都内方向に定点カメラを向け放送するのも良い。

自治体で作っているハザードマップを番組に使うのも有効だが、浸水地域に住む住民の心情を考慮すると慎重になる。

本日は貴重なご意見ありがとうございました。

以上